

九建日報

発行所
株式会社 九建日報社
〒812-0018 福岡市博多区甘井5-9-19
電話 代表 092(431)5361 番
FAX 092(431)7613 番
購読料 1ヵ月 6,300円
北九州支局 TEL093(921)5011
佐賀支局 TEL0952(34)5540
長崎支局 TEL095(827)5595
熊本支局 TEL096(363)1553
大分支局 TEL097(543)5234
宮崎支局 TEL0985(24)6088
鹿児島支局 TEL099(259)3426
http: www.kyuukenippou.co.jp

初の事後評価了承

新技術活用評価委員会

九州整備局

九州地方整備局は9日、新技術の事前評価、現場での試行、事後評価を通して有用な情報を充実し、新技術の活用促進を図る、新技術活用評価委員会(委員長・高橋和雄長崎大学教授)の第3回会合(写真)を福岡市博多区で開催した。新規に申請された2技術を含む10項目の新技術について協議し、3技術の事前評価、2技術の試行計画、5技術の事後評価をそれぞれ承認した。試行計画の承認及び事後評価の承認は今回が初めてとなる。

国土交通省は、新技術の活用促進のため、NET-S(新技術情報提供システム)を用いた公共工事等における技術活用システムを運用していたが、実績の無い技術の安全性や耐久性等についての不安から、活用が進んでいないのが現状だった。これを受け同省は、技術活用システムを、新技術の

事前評価、現場での試行、事後評価を実施する「評価試行方式」と、ニーズを示して優れた新技術を公募・選定する「テーマ設定技術募集方式」に再編・強化する取組みを今年度から進めている。

九州地整では評価試行方式を用いて新技術の活用促進を図る。申請のあった新技術の安全性・耐久性等を

事前評価し、問題のない技術は現場で試行、結果を評価して新技術活用の判断材料となる信頼性のある情報を充実するもので、新技術の申請、事前評価、事後評価の各段階で速やかにNET-Sに掲載する。

新技術活用評価委員会は同方式において、新技術の事前評価、試行計画の承認、事後評価をする組織

で、産学官のメンバーで構成する。

今回の会合では、①スタビリタ(前田工機)が申請の②DEM調査(環境建設テクノ)③ミナソル(水質浄化システム)の事前評価、④経石分割可能型側溝ブロック(朝シマコンサルタント)⑤エコアンプ緑化工法(御草水組)の試行計画、⑥MITS工法(CMSシステム)(御草工建)⑦ダブルミキシング工法⑧ダブルミキシング工法研究会⑨超軟弱土固化処理工法マッドミキサーM-

I型(例セリタ建設)⑩同M-II型(例セリタ建設)⑪法面緑化工「土壌園工法」(南有効土壌園研究所)の事後評価についてそれぞれ協議し、全案件を承認した。

①②については事前評価が完了した。③については、既に確立された技術で活用も多いことから、試行はせず、全国の直轄工事で活用を待ち、そのデータをもとに事後評価することとした。④⑤は、今後試行現場の選定に入る。⑥は軟弱地盤処理工、⑦は調査試験で今回新規に近畿地整、関東地整に申請されたものの、各地整ごとに担当する工種が割り当てられており、九州の担当が軟弱地盤処理工、法面工、地質調査であることから今会合で審議した。

④⑤は前回会合で事前評価が完了し、試行計画の策定を進めていたもので、⑥は来年度九州管内のバイパス工事で試行し、⑦につ

いても来年度管内の法面工で試行するとして試行計画を承認した。

⑧⑨については、前回会合において、施工実績が多、工事の資料も豊富にあることから、試行せずに直接事後評価に移すとしていた。委員会では過去の施工実績から経済性、品質、出来型、安全性、施工性、環境性能、耐久性について申請通りの性能が発揮されていると確認し、事後評価を完了した。

試行計画の承認、事後評価の完了は今会合が初となる。委員からは「発注者向けの情報を充実するだけでなく、開発者に対しても改善点等のアドバイスをする必要があるのではないか」といった意見が多く出され、九州地整は今後検討するとした。

